

2012年12月
1049号

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

百葉

Manyoh

シンポジウム「東アジアにおけるジェンダー法学の展開と課題」を拝聴して 『ジェンダー平等のために私たちができること』

12月8日、ジェンダー法学会第10回学術大会の1日目に、林弘子先生がコーディネーターを務めるシンポジウム「東アジアにおけるジェンダー法学の展開と課題」が早稲田大学国際会議場（井深大記念ホール）で開催されました。シンポジリストとして、北京大学から馬憶南氏、韓国放送通信大学から金エリム氏、台湾政治大学から陳惠馨氏がそれぞれ来日され、各国の事情をお話されました。日本のみならず、中国・台湾・韓国におけるジェンダー政策と課題を知ることで、逆に日本の法整備や社会全体のジェンダー問題に対する理解が足りていない現状を改めてつきつけられました。



この度は一冊の会櫻華塾グローリア部の4人が代表してシンポジウムを拝聴し、今後も一冊の会として草の根の語り部としての必要性和その使命を強く認識しました。ここに4人の感想を発表し、決意といたします。

ジェンダーに関する問題は、宗教的な価値観や歴史的な慣習に依存するところが大きいように思います。民族の近い同じ東アジア諸国の現状を知ることが、日本の進歩にも繋がると感じました。

特に、中国の馬先生が問題点として挙げられていた「平等」の捉え方は、ただの机上論では片付けられない難しさを感じました。一見、平等に見える法解釈が女性にとって不利になることもあるという事例のお話は、中国の結婚事情まで把握していないとわかりません。私は、家財道具の消耗まで考える事を細かくご説明いただければじめて理解することができました。

3か国それぞれの発表を聞き、お国柄の違いが生む差異を興味深く思うと同時に、日本では当たり前のことも他の国では当たり前ではないという価値観の違いを改めて認識しました。他の国の良いところを取り入れながら、日本人に合った法律をつくっていくことが大事だと思いました。

瀧川紗智子

ジェンダーに関する法律に、アジアの4カ国でこんなに違いがあるとは、全く知りませんでした。特に、台湾では教育から変えていくこと、それも全ての分野の中に浸透させる事を目標としていて驚きました。今まで、理科や数学といった教科にまでジェンダーの概念が影響している可能性を持っていて

かなくはないなどとは、考えた事ありませんでした。しかし、考えてみれば、私は高校で物理を選択しましたが、女子で選択した人は少数でした。そのような所に社会全体の潜在的な意識が潜んでいたのかもしれませんが。

自分の中にも今まで身に付けた価値観があり、なかなかそのフィルターを外して見るのが難しいところ、今回のように他の国、それも近くのと比較してみる事で改めて日本の状況について考えられる点もありました。こういった経験を積み重ねる事で自分の価値観を見直していきたいと思います。

高橋美香子

ジェンダー平等は世界を築くために不可欠な要素であり、すべての社会問題において避けることが出来ず、現在の私達に課せられた重要な課題なのだと強く感じました。そしてジェンダー平等を勝ち取る為には、一人ひとりが当事者として真摯に行動していかなければならない事を感じました。今回のシンポジウムで紹介があったような、法律の改正や学校教育の現場の認識の変化を促すといった国単位でないと出来ないこともあります。全ての分野にこの問題は存在するのであれば、様々な業界の人がこの問題に興味を持つことが大切だと感じました。私は今回の学術会議を拝聴して、ジェンダー平等の重大さを再認識しました。

私たちは専門家ではありませんが、有権者・当事者としても、また個人として地域へ自ら参画していくなど、出来ることがあると感じております。一冊の会としての草の根活動、そして UN Women さくらの一員としての活動はもちろん、今後も女性の社会的地位向上の為に自分が出来ること・みんなで力を合わせて出来ることから初め、周りを巻き込み最終的に社会そして国を動かす大きなうねりとなるように活動して参る決意を致します。

村岡 清佳

私は男性ですが、今回シンポジウムを拝聴して、女性が社会で活躍する為には男性がもっと女性の気持ちや社会的立場に対して敏感になり、共感しながら共に考えていく必要があると感じました。そのことができていないと、実情にそぐわない法律ができてしまったり、法律自体が守られなかったりするのではないかと思います。しっかり男性が女性の事を理解し、支えて、共に歩んで行こうという意識さえあれば、極端ですが本来は法律やルールなどは必要ないのではないかと感じました。しかしながら現状では達成されてはならず、様々な法改正や働きかけを行う必要がある事が分かりました。

女性が住みやすい世の中になる事は、男性にとっても住みやすい世の中だと、私は感じています。今後も、一冊の会の活動を通して、女性も男性も住みやすい未来を創るよう、努力していきます。

永島 征太郎

林先生には NO!DV の活動の際に特別にご講演いただき、今回もまた林先生のおかげで日本のジェンダー法について考えるチャンスをいただきました。世界の第一線でご活躍されている林先生の下で学ばせていただいた貴重な体験を積み上げ、これからの日本のジェンダー平等を進める礎として自分の成すべきことを探し、実践して参ります。それが、全員 20 代・30 代の若手のメンバーが集うグローリア部としての使命だと感じております。

一冊の会 櫻華塾 グローリア部 編集担当 高橋美香子